

議 事 録

件 名	第 19 回（令和 3 年度第 1 回）セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会
日 時	令和 4 年 3 月 4 日（金）～3 月 31 日（木）
場 所	書面協議
出席者	山下 典雄 委員 久留米大学 医学部教授 岡村 明 委員 久留米医師会 理事（副委員長） 原田 謙一 委員 損害保険ジャパン株式会社 担当部長兼久留米保険金サービス課長 服部 辰典 委員 久留米広域消防本部 救急防災課長 内藤 美智子 委員 久留米市保健所長 宮原 義治 委員 久留米市協働推進部長
欠席者	山下 寿 委員 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 救急救命センター長
協議事項	（１）委員長の選出について （２）対策委員会の今後の取組や課題について （３）その他
質疑	（１）委員長の選出について 山下 典雄 委員（久留米大学 医学部教授）… 6 票 （２）対策委員会の今後の取組や課題について
委員 ①	○交通安全対策委員会 高齢者の交通事故防止①指標【長期】 全国的に交通事故は減少し高齢者の人口が増えている状況下において、全事故件数に対する高齢者の事故の割合は増えるのは当然であり指標に相応しくない。高齢者人口に対する高齢者の事故件数の割合を指標とすべき。
委員 ②	○交通 ・交通安全対策において、高齢者の対策が急務であることは間違いない。日本では、これからも高齢者は増え続けていく。対策に遅れは許されない。高齢者事故の特徴は、加害者、被害者の両方になること。 ・加害者にならないために一番良いのは、運転をしないこと。しかし、生活には車が必要だ。完全自動運転の普及はまだまだ先の未来になりそう。本来ならば、高齢者が、自ら運転をしなくて済むような街を作ることが理想だ。 ・被害者とならない対策はどうか。京都警察の調べによると、夕方、夜間時の自動車のドライバーから見て、「反射材を着用している歩行者」は、「着用していない歩行者」よりも２倍以上手前で発見できるようだ。このように反射材の効果は絶大である。ぜひとも、普及に努めていきたいが、なぜ普及しないのか。「なぜ、彼らはつけないのか？つけたがらないのか？」という点にスポットをあてて、真に検証する必要があるそう。高齢者は地味な服装をしていることが多く、反射材の効果は絶大と考える。

議 事 録

委	員	③	・重傷事故や死亡事故の多くは自転車事故によるものだ。委員会の対策のように、自転車に対する啓もう活動と同様に、ドライバーへの対策が必要であると考えている。私はこの地区に来て４年となるが、そこで感じたことは、４輪等のドライバーのマナーの悪さだ。交通弱者である歩行者や自転車に対する思いやりが、他地区に比較して希薄のような気がする。言い換えるならば、自動車が優先の街となっている気がする。 ○交通安全 ・高齢者が加害者となる事故の割合が増えている。 ・認知機能が衰えた高齢者は交通違反が多いという報告がある。 以上のようなことから、高齢者は運転しないことが最もよい。交通安全対策委員会の指標を見ると、免許返納者が減っているようだが、積極的に免許の返納を促す対策を検討されてはどうかと思う。
委	員	①	○高齢者の安全対策委員会 転倒予防①転倒予防に関する普及啓発 ・超高齢化社会において、高齢者の安全対策は重要課題であり、けがの原因として自宅での転倒が多く発生している。パンフレットの配布も重要であるが、出前講座（予防救急）として講話や応急手当など、積極的に取り組む必要がある
委	員	長	○全体 ・各委員会の取組については非常によく考えられて取り組まれているものと思う。 ・各委員会の取組を例えばローカル TV 番組で放送して市民の認識を高める、といったことも検討してみてもどうか。 ・教育的な内容は URL を示し Web 上で視聴できるようにするのも方法かと思う。